

施設・設備等の整備

1. 二つのキャンパス

本学には、渋谷キャンパス（東京都渋谷区松濤）と南大沢キャンパス（東京都八王子市南大沢）の二つのキャンパスがあり、通常の授業は南大沢キャンパスで実施しています。

2. 校地・運動場の整備

(1) 渋谷キャンパス

渋谷キャンパスは、緑豊かな公園や美術館にも近く閑静な住宅街に位置しており、恵まれた学修環境にあります。渋谷キャンパス・渋谷1号館は山手通りに面した9階建てのひとときわ目立つ建物で、校舎には講義室の他「ウォータートレッドミル」という水中でイヌのリハビリテーションを行う医療機器を収めた実習教室や、動物臨床看護学・コンパニオンアニマルケア実習室もあります。都心のキャンパスであることから限られたスペースを最大限に生かして、教室を効果的に使用し且つ学生生活の場を整備しています。

(2) 南大沢キャンパス

南大沢キャンパスに大学本部を置き、1年次～4年次の全学生の授業を実施しております。

南大沢キャンパスには、1号館、2号館、3号館及び宿泊施設等を含む管理等「グリーンガラスロッジ」を置き、教育研究活動の整備を図っております。また、南フランスプロヴァンスをイメージした街づくりや自然に配慮し、校舎及び植栽を整備しています。

南大沢2号館に併設する運動場として、フットサルなどの多目的に使用可能なグラウンド（1,403 m²）を整備し、授業時間以外は学生が使用できるよう解放しています。体育館は、南大沢1号館4階（セントフランシスホール）（558.4 m²）を使用しております

さらに2号館最上階には、学生食堂を整備し、学生同士のコミュニケーションの場を提供しております

3. 校舎等施設の整備

(1) 渋谷キャンパス

渋谷キャンパスでは、実習室は50人前後、講義室は100人前後で使用することを想定して配置されております。地下1階には、コンパニオンアニマルケア実習室（収容人数54名）、2階には動物臨床看護実習室があり、各階に講義室があります。その他、7階には多目的実習室が置かれています。

また、医務室を整備し学生の心身の健康管理を行っているほか、学生が自習できるスペースとして自習室を置き、9階には、学生の休憩や自由に集う空間となるように学生控室を設けています。

(2) 南大沢キャンパス

平成28年度より1年次～4年次までの全学生が南大沢キャンパスにて授業科目を履修することとなりました。

1号館には、体育館(558.4 m²)をはじめ、実習室、講義室、演習室等、基本的な施設、設備及び備品が整備されています。また、南大沢2号館の隣接地にフットサルなど多目的に使用可能なグラウンド(1,403 m²)が整備されています。

2号館は、大学の教育課程及び授業形態に対応する大講義室、実習室、演習室、研究室などを整備し大学としての教育研究環境の充実を図っております。また、マルチフィールドに宿泊施設を含む管理棟「グリーンガラスロッジ」を設置し、動物応用及び動物介在福祉に関する教育、研究、ボランティア活動のための教育環境に配慮しております。

そのほか、就職活動や社会活動の支援をするキャリアアップセンターを設置し、検索コーナー・面接室を配置して学生対応を実施しております。

なお、1号館、2号館及び3号館はアーケードで結び、3つの校舎間の移動の利便性に配慮しているほか、各館内には絵画及び彫像などの美術作品がエントランスホール、廊下壁面などに配置され、芸術に親しむ心を培うことが期待されています。

図書館は、南大沢1号館の図書館を整備充実して活用しています。南大沢キャンパスの教室は、全学年が同一キャンパスで授業を受講することを念頭に置き、情報処理教室、中講義室及び演習室等を授業用に整備しております。

教授・准教授には、個室の研究室を用意し、単に教員の研究活動の場だけではなく、学生とのコミュニケーションが容易に行えるよう整備し、学生へのアドバイスや学生指導の場として活用されております。講師・助教の研究室は、複数名で活用する共同研究室とし、学生の対応にも空間を確保するなどの整備を行っております。また、1号館、2号館及び3号館の1階に教員の出退状況を確認できるモニターを置き、学生の利便性に配慮しています。

「専門教育科目」、特に実習科目に必要となる施設設備及び教具等を整備しています。なお、これらの実習用教材には、動物を使用しますが、教材としての動物は、イヌが主要なもので(一部ネコ、トリを使用)あり、教育・研究においては動物取扱に関する学内規定に従い適正な教育・研究倫理を順守しております。

なお、学内で動物を飼育して授業に利用する場合、動物が授業に慣れてしまい実際の現場で体験するものとは異なる状況となってしまうこと、特定の犬種のみ取り扱うことにより知識が偏ってしまうこと、グルーミングなどにより毛をカットした個体は当分の間次の授業で使用できないこと等より、また、動物愛護の精神からも授業で使用するイヌについては外部のイヌを使用しております。このため、本学園では当初から家庭で家族の一員として飼育されているイヌ等をモデルとして登録する制度を設け、そのモデル犬等を授業において使用しています。本学では、毎年3,500頭以上のモデル犬が使用されており、学生が4年間の実習で同じ個体と出会うことがほとんどなく、緊張感を持って実習に望むことができます。

動物臨床看護学実習では、一般身体検査、保定法、検査器具の使用法を学ぶ際にモデル犬等が使用されます。解剖生理学実習では、近年の動物愛護の高まり、動物実験反対運動、動物実験代替法への期待等から、生体を用いた実習は極力行わないこととしています。イヌでは、骨格標本、各器官を剖出した標本、イヌの解剖模型を使用します。また、トリの解剖は食用に加工されたものを用います。これ等により、学生にとって極めて適切な教育環境を提供しております。

動物を授業のために学内で預かる場合の設備については、犬舎、イヌのトイレ、ドッグラウンジ、イヌ用エレベーター、イヌ用シャワー（シャンプー）コーナー等の施設などを設けています。安全管理の面では、イヌが外に出てしまうことの無いように二重ドアを設置しています。衛生面では、清掃や消毒を定期的実施しており、換気扇、消毒液、消臭剤などによる臭い対策と防音性に優れた教室の仕様による対策がなされております。

さらに、各校舎に東京都福祉保健局に届け出た動物取扱い責任者を置いて、動物の安全・衛生に万全を期しています。あわせて、本学が契約しているモデル犬等が、静かにすることをしつけられているものが多いことなどにより、イヌ、ネコなどが校舎に出入りすることによる騒音や臭気に関する近隣住民からの苦情は皆無です。

また、ロッカー室を配置し、学生に個別のロッカーを付与しております。

そのほか、情報化社会に対応して情報処理室及び語学学習施設を設置しております。当該施設には、パソコンとプリンターを備え、マイクロソフト社製の Word、Excel、PowerPoint をインストールし、文書作成やプレゼンテーション資料作成などを学生が経験できるように整備されています。授業時間外には学生に開放して資料作成やインターネット検索等が自由に使用できる環境が整備されています。

更に、医務室を設置して学生の健康管理を行っているほか、学生の悩みの多様化に対応すべく学生相談室（カウンセリングルーム）を設け、カウンセラーを配置しております。

4. 図書等の資料及び図書館の整備

(1) 図書等の資料

南大沢の図書館では、旧渋谷 2 号館から移動した図書と合わせ、和書 30,259 冊、洋書 3,646 冊、雑誌 196 種、視聴覚資料 618 点を所蔵しております。

電子ジャーナル等については、電子ジャーナル 18 種、データベース 5 種類が利用可能です。卒業論文等の指導教育、研究活動に備えるために、専門分野である動物看護学はもとより、教養分野の図書の充実を図るため、計画的に図書の整備を行っております。また、学生及び教員からの希望図書を随時募集し、利用者のニーズに応えるように努めております。

(2) 図書館の整備

南大沢図書館は、1 号館 3 階（215.50 m²）と 1 階（76.60 m²）に分かれており、3 階には受付カウンターと閲覧スペース（座席 28 席、AV2 席、検索端末席 8 席）及び開架式書庫が設置されています。1 階は書庫となっております。

文献の検索に関しては、検索可能なパソコンにおいて OPAC、CiNii を利用し、レファレンスについては専任職員がカウンターで対応しております。更に、イヌやネコといったコンパニオンアニマルに関する国内外の貴重な資料を収集し、定期的に展示を行っております。